

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4372400863
法人名	有限会社 七丈原
事業所名	グループホーム 岱明の里
訪問調査日	平成 20 年 11 月 20 日
評価確定日	平成 20 年 12 月 19 日
評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

作成日 平成 20年 12月 12日

【評価実施概要】

事業所番号	4372400863		
法人名	有限会社 七文原		
事業所名	グループホーム 岱明の里		
所在地 (電話番号)	熊本県玉名市岱明町高道1090-1 (電話) 0968-66-8230		
評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本3-13-12 205号		
訪問調査日	平成20年11月20日	評価確定日	平成20年12月19日

【情報提供票より】(20年10月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年3月24日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	25 人	常勤	14 人, 非常勤 11 人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造平屋造り	
	1 階建て	1 階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,500、31,500 円	その他の経費(月額)	16,500 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(10月31日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	3 名	要介護2	7 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.2 歳	最低	68 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	公立玉名中央病院 城ヶ崎病院 さくら歯科医院
---------	------------------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営者の両親への思いからグループホームをスタートさせたのをきっかけに炭酸カルシウム温泉デイサービスセンター、そして医療難民・介護難民を実体験し有料老人ホームを今年5月開設している。ホームでは認知度・介護度の如何に関わらず受入れ、全職員が入居者一人ひとりに向き合い、何を望み期待されているのか観察し、安心・安全の徹底に努めており、入居者の穏やかな落ち着いた日常生活となって表出されている。開設6年目を迎え、運営推進会議に全家族に参加案内し、受診対応を家族へと変更する等家族との連携強化を図っている。地域密着型ホームとして、施設長や入居者の生まれ育った故郷という環境や地域への啓発が行渡り、地域での生活は充実し相互交流や地域の一員としての活動も常態化しており、運営推進会議を通して地域福祉の向上に寄与されることが期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	昨年度の評価より家族との再構築に受診対応を家族に移行したり、夜勤帯の職員体制の変更等具体的な改善を図る等改善へ向け真摯に取り組んでいる。運営推進会議も家族会役員から全家族へ参加案内を行うよう変更している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価・外部評価を職員の教育のツール、意識向上の一環と捉えている。職員も日々のケアを振り返る機会として全員で自己評価に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定例化した運営推進会議は、行政・民生委員・区長・包括支援センター等の他、今年度より全家族への参加案内や系列施設が一体となって地域に根ざしたいとホーム職員の他高齢者住宅・デイサービスの職員も参加している。入居者の現状報告や職員体制等を説明し、外部評価後の改善へのに向けた進捗状況の報告や意見交換を行っている。議事録からも活発な意見交換や有意義な会議となっていることが窺われ、運営推進会議を通して地域福祉の向上に寄与されることが期待できる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族訪問時何でも気軽に話し合える雰囲気心がけ、運営推進会議と家族会を同時に開催し問題提起の場・家族同士の交流の場と位置づけ、意見や要望をホーム運営に反映するよう努力している。家族会での質問事項等について毎月の報告書や機関紙に掲載し、家族との連携や情報の共有化を図っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	開設時より地域との相互交流に取組み、夏祭りでは19年度は最優秀賞、今年はベストレッサー賞が贈られている。施設長・入居者の生まれ育った故郷という立地条件や地域への啓発が行渡り、地域生活は拡充されている。又、自治会への加入やお宮の掃除をする等地域の一員として活動しており、地元との関係が構築していることが窺われる。

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	“ゆっくり いっしょに たのしく”をモットーに住み慣れた地域の中で、できる限り今まで通りの生活の支援等4項目に具現化した法人理念と、“感謝から報恩へ 報恩から地域貢献へ”を玄関に掲げ、入居者のみならず地域を取り巻く高齢者福祉を支えたいと取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関には大きく理念を掲示し、各ユニットにも介護理念の掲示による意識付けを行い、毎朝の申送り時、理念の唱和と“職場の教養”を音読し、職員からの一言コメントが一日の始まりとして理念を規範としたケアに当たっている。施設長は全体会議の中で事例を通して指導し、職員も入居者から慕われる介護をしていくことを信念に日々真摯に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設時より小中学生の総合学習の受入れや運動会の見学等相互交流に組み、地域行事へ積極的に参加し夏祭りでは19年度は最優秀賞、今年ベストドレッサー賞が贈られている。施設長・入居者の生まれ育った故郷という立地条件や地域への啓発が行渡り、地域生活は拡充され、入居者の同級生との関係も継続し頻繁な訪問も得られ、訪問する小学生と一緒に校歌を歌われる等地域性を発揮している。又、自治会への加入やお宮の掃除をする等地域の一員として活動しており、地元との関係が構築していることが窺われる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					

外部	自己		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価を職員の教育のツール、意識向上の一環と捉えている。職員も日々のケアを振り返る機会として全員で自己評価に取り組んでいる。昨年度の評価より家族との再構築に受診対応を家族に移行したり、夜勤帯の職員体制の変更等具体的な改善を図る等改善へ向け真摯に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定例化した運営推進会議は、行政・民生委員・区長・包括支援センター等の他、今年度より全家族への参加案内や系列施設が一体となって地域に根ざしたいとホーム職員の他高齢者住宅・デイサービスの職員も参加している。入居者の現状報告や職員体制等を説明し、外部評価後の改善へ向け進捗状況の報告や意見交換を行っている。議事録からも活発な意見交換や有意義な会議となっていることが窺われ、運営推進会議を通して地域福祉の向上に寄与されることが期待できる。今後権利擁護等の勉強会も同時に行う意向である。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	困難事例相談や入居者の認定更新時等情報交換の他、生活保護受給者の相談等行政担当者と連携を図っている。運営者は頻繁に足を運び情報を発信している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時に暮らしぶりや健康状態を報告し、毎月介護計画担当者が健康状態・身体機能・活動状況を送付し家族との連携を図っている。金銭管理は入居時家族の同意を得て個別管理され、毎月サインによる確実性を図っている。又、年3回“笑顔の里”便りにより情報を発信し、職員の異動は運営推進会議で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族訪問時何でも気軽に話し合える雰囲気心がけ、運営推進会議と家族会を同時に開催し問題提起の場・家族同士の交流の場と位置づけ意見や要望をホーム運営に反映するよう努力している。家族会での質問事項等について毎月の報告書や機関紙に掲載し、家族との連携や情報の共有化を図っている。		

岱明の里

外部	自己		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は馴染みの職員によるケアの重要性を認識しているが、高齢者住宅の開設により職員の経験に応じた異動が行われている。ユニット間も新風による意識向上や入居者の情報を全員が把握するために必要と考えている。入職時には新人教育の徹底と各時間帯を10日から2週間マンツーマンで勤務し、入居者の状況把握や信頼関係を築き、入居者へのダメージを防ぐようにしている。	○	運営者は離職防止やストレス軽減に親睦会や職員とのコミュニケーションに努力されており、この1年離職者は出ていない。引続き馴染みの職員でのケアが継続されることを期待したい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県の研修会や社会福祉士ブロック会・グループホーム連絡協議会等外部研修に職員個々のレベルに応じ積極的に参加し、ホーム内では研修報告書をもとに伝達講習を行い情報の共有化を図っている。認知症専門医により講演会に職員と家族が参加したり、講師を招いてのリスクマネジメント勉強会等レベルアップに向け意欲的に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、意見交換や事例検討等を通じた交流やネットワークにより質の向上に取り組んでいる。また、今年3月の連絡協議会玉名支部主催“のど自慢大会”では、ホームが世話役として企画・参画し、大盛況であったことがニュースになり、2回目も開催されており、玉名支部の連携が窺われる一つである。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居申込み時本人・家族の思いや意向、生活や心身の状況を把握し信頼関係を作り、見学や体験により本人の納得の上での入居となるよう家族の協力を得て支援している。入居による不安感を払拭し心の安らぎを感じてもらおう努めており、帰宅願望時に家族に電話を入れたり、随時の状況報告により家族の理解を得、連携して取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活において一緒に生活する喜びや悲しみを分かち合う関係でありたいと、寄り添いのケアや傾聴により生き生きとした表情を引き出し、入居者の生きてこられた人生の過程を共感し、尊敬の念を持ってケアに当たっている。		

外部	自己	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の言動や行動を把握し個々の思いを気づき、意思を尊重しながら生き生きとした生活を引き出すよう取り組んでいる。言語的コミュニケーションの難しい場合には表情やしぐさ等、また家族の情報や意見の収集に努め、本人本位となるよう検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居1週間は情報収集の時間・職員の観察の時間とし、家族の意向は直接記入してもらっている。毎月モニタリングを行い、サービス担当者会議に家族も参加されており、家族の意向や担当職員の気づき・観察の結果が反映された介護計画となっている。また、プランをケース記録に添付し職員の共有化を図っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的には6ヶ月毎に見直し、認定更新に合わせて再作成しているが、毎月のモニタリングを3ヶ月毎に定期モニタリング表にまとめ、モニタリングの結果によって随時追加プランを記入している。入退院等状態に応じ家族の意向や担当職員の意見、主治医の意見を取り入れ現状に即した介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望に応じ受診へ同行したり、併設のデイサービスの機能を利用した身体機能維持等法人を一体的に考え多様に展開してる。又、日々健康管理に努め、異常の早期発見による入院回避により医療処置を受けながらホームでの生活を継続している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					

外部	自己		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医について家族に説明し、かかりつけ医への継続的な治療や本人・家族の同意を得てホーム近くの医院への変更等希望に応じ、訪問看護等も採り入れている。家族との連携強化や再構築として受診対応をホーム側から家族同行へ移行段階であるが、初診や受診日調整、受診状況の把握や内服薬の受取等の支援はホームが行っており、適切な医療を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化した場合の終末期ケア方針を説明し、健康上の問題についてはかかりつけ医より家族に説明が行われている。終末期ケアのケースは今までどのところ無いが、職員は入居者・家族の意向のもと今後も継続して入居者を支えていく意向である。	○	介護度や認知度の如何に関わらず受け入れられており、今後も家族やかかりつけ医・職員と協議を重ね、具体的な状況に備えて全職員が共通認識のもと、統一した支援に繋げていただきたい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援

(1)一人ひとりの尊重

20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は明るく自然体に関わり、ノックでの入室やトイレ誘導時の手引き等入居者一人ひとりを尊重し、思いやりを持って接していることが訪問時確認できた。職員同士が意見を出し合い、ケアの統一や偏りの無いケアに心がけている。個人情報の保護方針や利用目的を説明し家族から同意書を受入れ、記録物も事務所管理とする等情報の漏洩に周知徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのライフスタイルに合わせ、食事時間や入浴時間等その人らしく生活することを支援していることが介護計画に表出されている。午後の時間は居室で休憩したり、職員が弾くピアノにあわせ歌ったり、おやつ作りに精を出したりと楽しく過ごされていた。		

(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

外部	自己		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材や本を見ながら献立を決め、入居者の能力に応じ調理への参加や盛り付け、洗い物など一緒に取り組んでいる。主婦としての長年の経験が生かされがらんばっておられる姿や男性入居者も下膳を自然発生的に行われている姿等を垣間見ることができた。職員は入居者の介助をしたり、声かけしながら同じ食事を一緒にとっている。季節に応じ、そうめん流しや秋刀魚を外で焼いて食べたり、誕生会は手作りケーキにお赤飯等食事が楽しみなものとなるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴前のバイタルチェックの徹底により入浴可否を見極め、ユニット毎に一日置となっているが体調や希望に合わせて楽しんでもらうよう支援している。入浴拒否や入居者の状況により職員2名で対応したり、夏場はシャワー浴により清潔保持に努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の出来ることや特技を把握し、出番や得意分野を発揮できるよう支援している。調理への参加や掃除・洗濯物干し・たたみ等体調により一緒に取り組み、塗り絵等により意欲的な生活ができるよう支援している。公文式ドリルによる認知症進行防止等に取り組み、楽しみごと・気晴らしの支援としてプラモデル作りやのど自慢歌合戦参加や計画した多くの外出の機会を作り、メリハリのある生活へと繋げている。町民総踊りにも参加され、楽しまれたことも写真により窺い知ることができた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個々の希望により買物や散歩・地域行事への参加等外出支援を行っている。デイサービスを利用した身体機能維持やウッドデッキでの外気欲等も戸外への支援の一つになっており、夜市等夜間の外出も支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					

岱明の里

外部	自己	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	道路に面しておりホーム入り口はセーフティロックによる管理、玄関・居室は鍵をかけず自由な出入りとなっている。リビングは掃きだし窓となっており、所在確認の徹底と外出傾向を察知し職員の見守りや寄り添いのケアにより支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署・地区消防団・地域住民の協力のもと、年1回防災訓練を行っている。また、防火安全対策研修会へ参加したり、火を出さない・出させない環境としての火元確認の徹底と、有事に備え自家発電装置を設置している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時や10時の牛乳、午後のおやつ時や入浴後等水分補給に努め、食事摂取量を記録し栄養管理としている。嚥下状態によりキザミ食や粥等を採り入れ、個々の状態変化に主治医の指示による補助食品の活用、血糖値によってはご飯の量による調整等個別対応に努めている。		
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周りには季節の花が植えられ、玄関を中心に各ユニットともにリビングや廊下は車椅子使用の入居者にはゆとりある広さとなり、歩行訓練の場として活用されている。道路に面したホームであるが騒音も無く、採光の良い清潔感漂う室内である。居室は日光の射し込みの違いにより居室料で調整している。リビングにはピアノに合わせ歌をうたったり、ソファや炬燵を設置し、居心地良く過ごすよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはベッド・箆笥・布団はホーム側が準備しているが、これまでの生活を継続できるように使いなれた家具や仏壇・位牌の他生活用品が持ち込まれている。ご主人の遺影を前に線香・蠟燭を灯し手を合わせられる入居者もおられ、家庭生活の延長としての居室もある。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム岱明の里
(ユニット名)	南棟
所在地 (県・市町村名)	熊本県玉名市岱明町高道1090-1
記入者名 (管理者)	西口俊之
記入日	平成20年10月30日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	「感謝から報恩へ、報恩から地域貢献へ」の理念のもと、地域の中の岱明の里を意識しながら「ゆっくり いっしょに たのしく」をモットーにサービスを提供しています。	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	毎朝の職員ミーティングにおいて理念の唱和を行い、常に理念を意識できるよう心がけています。	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	地域で行われる行事等には積極的に参加し、岱明の里を認知していただけるようにしています。また、機関紙「笑顔の里」にご利用者の笑顔・喜びの表情などを掲載することにより、ご家族・地域の方々に岱明の里を理解していただく努力をしています。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	受診介助や買い物等で出会うご近所の方や子供たちとの挨拶や世間話をしたりして地域の一員であるという意識を持つように心がけています。	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	地域の行事等に積極的に参加したりすることによって、岱明の里を地域の方々にも広く認知していただくよう努めています。小学校の運動会や町の夏祭りには毎年顔をだしています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	グループホーム支部会や職員研修で学んだ事を、地域の方にも還元できるよう講演会を企画したり、運営推進会議の場を利用したりして取り組んでいます。		年3回の機関紙に、地域の皆様に役立つような情報の掲載にも努めていきたいと思っています。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価は全職員の意識を高める上で有意義なことと理解し、日頃のケアを振り返る機会と考えて日々のケアに取り組んでいます。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には多くの職員が参加できるよう設定し、参加しない回のことでも全職員が把握できるよう話し合いの場を設けるようにしています。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所としては行政にも進んで色々な事柄を相談したりしています。行政側にももう少し活発な意見を期待したいところです。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	まだまだ十分には理解できていないと考えます。今年数人ですが介護支援専門員を受験いたしましたので職員の中には学ぶ機会を持つことができた者もいると思います。次の段階として他の職員への勉強会等を考えていこうと思っています。現在まで必要な方の事例はありません。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等で虐待を正しく理解し、言葉による虐待もないように言葉づかいから気をつけています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書・重要事項説明書を読んでいただき、不明・不安なことなどないか尋ね、十分理解していただけるようきちんと説明を行っています。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご利用者の不満・苦情を聞いたときは、職員で話し合い速やかに回答できるよう心がけ、その後の運営にも反映させるようにしています。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>年3回の機関紙発行や年2回の家族会、また面会時には日常生活や健康状態を報告できるようにしています。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>個々の面会時には必ず近況報告を含めて、ご家族と話す時間をもち、意見等を聞ける時間としています。また、年2回の家族会においても事業運営全般についても意見を聞く時間をもち、運営に反映させる姿勢を伝えています。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月に一度は全体会議を行い、職員の考えや意見を聞き反映させるよう努めています。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>ご入居者の状況の変化、状態やペースに合わせた職員の勤務調整を行うよう努めています。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>管理者や職員には常日頃より話してはいますが、やむをえず退職し新しい職員が入職した場合新人教育等にて一日も早くご利用者に信頼して頂ける職員になれるように配慮しています。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階にあわせた研修等には積極的に参加させています。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は運営者として必要なことと認識しています。畝医者自らも同業者を訪問したり、いろいろな悩み等話す機会をつくっています。職員を同行することも度々です。支部会にも積極的に参加させ交流する機会を持たせています。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	懇親会を開いたり、日常のさりげない会話の中で職員の様子を理解するよう努め、気になる職員がいた場合には個別に話す機会を持つようにしています。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員個々の働きを把握する為にも、毎日職員とは顔を合わせるようにし、言葉をかけるように努めています。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご入居当初の不安・寂しさ・求めておられる事を早く理解できるように職員全員が会話等頻繁にするようにし、職員間での情報の共有に努めています。	一日も早くホームの生活に慣れていただけるように集中的にご利用者の状態の把握に努めると共に職員とご利用者の信頼関係づくりに力を注ぎたいと思っています。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談を受け段階から、ご家族の思いに耳を傾け、受け止めるよう努めています。できるだけ話をする機会をもつようにしています。	ご家族のニーズがどこにあるのかに気づくためにも話し合う機会を密に持つようにし、グループホームでの支援を理解していただき利用当初から信頼関係が築けるよう努めています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族と可能な限り話す機会を持ち、グループホームでの支援が適切であるかを職員間でも話し合い、今何が必要であられるかを見極められるよう努めています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ケースによっては入居まで何度か訪れて頂いたり、入居後はご家族の協力の下、ご本人が納得されるような場面作りを心がけています。また、リビングや居室等ご本人が好まれる場所作りから安心感と心の安らぎを感じていただき、職員や他ご利用者への馴染みの関係へと広がっていくように努力しています。		ご利用者本人に安心感を与え納得していただける状況、雰囲気作りをご家族と話し合いながら努力しています。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご入居者と接しているとき、仕事してではなく一緒に生活している喜び、また悲しみを分かち合える関係でありたいと思っています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族の関係を第一に考え、面会時には近況報告を行い情報の共有に努め、共に支えているという認識を持っていただけるよう努めています。		ホームとご家族の情報交換は蜜に行うように努めています。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまで家族が担ってこられた部分をすべて断ち切るのではなく、ご家族と共に支える姿勢をご理解いただけるよう話し合いながら支援をしています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人がそれまで生活してこられた環境に配慮し、馴染みの人と会える機会、馴染みの場所を訪ねる機会などに配慮しています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員は、ご利用者同士の関係を把握しており状況によっては一緒に楽しくすごしたり、時には遠くから見守ったりしています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
32	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>入院などやむをえない事情での契約終了の場合も、様子を見に行ったり、退院後の相談にも応じるようにしています。</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>ご利用者本人が会話を理解できる場合にはご本人より聞き取り、ご本人が伝えられない場合には日頃の行動や表情などから好みややりたいことなどを把握するようにしています。また、ご家族から意見を聞いたたりしたことを職員間で情報を共有するようにしています。</p>		<p>日々の生活の中で、ご利用者本人の希望や意向、またご家族の希望も取り入れていくように努めています。</p>
34	<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居時にご利用者様本人、ご家族からこれまでの生活を聞き取るようにしています。(様式3枚)入居前に他サービスをご利用の場合はその担当者からも情報を得るようにしています。</p>		
35	<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>職員全員がお一人お一人をより理解できるように情報の共有には力を入れています。介護記録はもちろん申し送りノートなども活用して総合的な把握に努めています。</p>		<p>ご利用者お一人お一人の日常生活に何が必要かなど職員間で情報を交換し、話し合いを重ねています。</p>
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>毎月のミーティングによりご利用者本人の状況を把握しケアの変更等はできるだけご本人に確認し、ご家族に報告相談し行っています。</p>		
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎月モニタリング(ミーティング)を行い、それに基づき3ヶ月ごとには定期モニタリング記録を行っています。状態が安定されている場合は6ヶ月毎に計画書を作成し、入退院等による変化があった場合等には必要に応じ見直しを行っています。</p>		<p>お一人お一人毎月のモニタリングを行い、現状に即した介護計画の見直しを行うようにしています。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録、バイタル表、プログラム表の記入を行っています。バイタル表は食事や排泄のチェックを行っていますのでケアの見直しに役立っています。		ケース記録にできるだけ日々のご様子やご利用者様の寄せられた言葉を記録するように努力しています。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイサービスを利用し機能訓練などを行ったり、ご利用者やご家族の状況に応じて受診など柔軟な対応をしています。		併設のデイサービス・有料老人ホームなどを利用し、ご利用者間の交流を積極的に行っていきたいと思っています。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	町で行われる行事には参加できるよう行政にも協力いただいたり、小中学校とは多くの交流を持たせていただいています。毎年行う防災訓練には広域消防をはじめ地区消防団等にも協力をいただいています。		現在も多くの方に協力をいただきながらの支援ですが、もっと日常的なボランティアの協力なども今後の課題ではないかと考えています。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居によって途切れてしまいそうになるそれまでのサービス利用等も他事業者との連携によって利用できるよう相談をしたりしています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加していただくことを通じて地域の情報をいただいたり、包括的な支援のあり方などの相談させて頂いています。		今後権利擁護事業等について教えて頂く機会をつくりたいと考えています。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者本人、ご家族同意の上かかりつけ医の変更を行うこともあります。受診はご家族同行を基本とするよう方向転換しつつあります。初診時の手続きや、受診日の調整、受診内容の把握、内服薬の受取りの支援は行っています。また、緊急時には必要適切な支援を行っています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレへの声かけやオムツ交換、汚染物を持ってこられたときなど、誇りを傷つけないよう、またプライバシーに配慮するよう心がけています。	ミーティングによっていろいろな意見を出し合い、意識を高めるように努力しています。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	お一人お一人の状態に応じた対応をし、ご利用者が暮らし易い雰囲気を作れるように心がけています。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人のペースを大切にし、いつも楽しく穏やかに過ごしていただけるように心がけています。	職員の都合ではなくご入居者の意思を尊重し、ご本人の思いを大切にしています。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ホーム内にも理容店の方がみえますが、ご利用者本人の希望に添ってできるだけ行きつけの理容店を利用できるように支援しています。	行事によっては、洋服を一緒に選んだりしておしゃれしていただき少しでも普段と違う楽しみを感じていただけるよう支援しています。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の皮むき、盛り付けなど慣れた様子でされています。いろんなことを教えていただきながら一緒に準備するのを職員も楽しんでいます。	季節の食材をできるだけメニューに取り入れて、季節を感じながら食事を楽しんでいただけるように配慮しています。職員も一緒に同じ食事をいただきながら、ご入居者と会話を楽しんでいます。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在、お酒・タバコを希望される方はいらっしゃいませんが、健康面で特に注意のない方には楽しんでいただけるような支援をいたします。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄に関してはデータとして記録をとり、訴えのできない方などにはデータに基づいたり、またその方の非言語的な訴えにも注意しながらトイレ誘導に心がけています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	おおよその曜日を決めてはいますが、その方の体調や希望にあわせて、気持ちよく入浴を楽しんでいただけるように支援しています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼間はリビングのソファに横になられてテレビを見ながらウトウされたりしています。夜間どうしても居室で眠る事に拒否のあらわれる方にはリビングに寝具を準備しお休みいただいたりすることもあります。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の後片付け、茶碗ふき、洗濯物たたみなどお一人お一人に役割をお願いします。外出を好まれる方には、買い物と一緒にさせていただいています。何かをしていただいた場合には必ず感謝の言葉を忘れないようにしています。		季節ごとには外での食事を楽しんでもらったりすることもあります。ご入居者皆様の気晴らしになっているのではないかと思います。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お手元に持っておられなくても、お財布をお預かりしているご利用者様もおられご自分の買い物をされるときにはお渡しするようにしています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	できるかぎり希望に添える支援をしています。日曜日には併設のデイサービスを利用して機器を利用させていただいたりしています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族とも相談しながら一緒にドライブや買い物、食事にかけていただけるような支援をしています。職員も少人数にて外出の機会を持つようにしています。		一年をつうじて花見に行ったりして季節を感じていただいたり、お正月には地元の氏神様にお参りしたり、地域の夏祭りや夜市など夜出かけるような支援もしています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様の希望に添えるように電話や手紙などできるように支援しています。中には携帯電話をお預かりしていつでもかけていただけるようにされている方もいらっしゃいます。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たち、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会の時間は決めずにいつでも来て頂けるようにしています。リビングや居室でゆっくり過ごして頂いたり、食事時間に重なったときには一緒に食事をしていただいています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃のケアの中でも意識できるような話し合いをし、身体拘束のないケアを心がけています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室・玄関には鍵をかけずにいつでも出入りできるようにしています。ご入居者の行動を止めることなく一緒に付添うようにしています。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	心身の状態や行動等に対し職員間の申し送りを確実にし、お一人お一人の行動を把握しさりげなく見守り、危険のないように努めています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	お一人お一人の状態によって居室内や通路などの物品は整理したり保管するようしたりしています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	外部研修や職員ミーティングなどを通じて学び、ご利用者お一人お一人を理解した上で、事故防止につながる努力をしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急対応マニュアルを整備し、対応できるようにはしています。		職員勉強会や外部研修での訓練を今後も考えていきたいと思っています。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	広域消防署・地区消防団また地域住民の方の協力も得て年1回の防災訓練を行っています。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ご利用者の状態、行動、健康面を含めたリスクについては、ご家族との話し合い、また面会時等に状況報告を密にし、その上でご本人が暮らしやすい環境を整えることができますようにしています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日常の体調を把握し、例えば有熱者は頻回に検温し、変化のある場合にはご家族にも報告・相談し、必要時には医療機関を受診するようにしています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	別にしていた受診記録をケース記録にまとめ、すぐに内容確認ができるようにしています。服薬管理は二重チェックして行っています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便状態は、バイタル表・ケース記録・業務日誌に記録しチェックしています。季節や飲食物によるものか考え、水分補給やトイレ誘導、腹部マッサージ、下剤調節等を行っています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	ご利用者本人の状況により見守りや介助にて歯みがき・義歯洗浄をし、口腔内の清潔に努め、口腔内の状態には気を配っています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量チェックは毎回行っています。水分量は必要時にはチェック表を使用し、栄養不足が考えられる場合は、補助食品を使用(医療機関処方による)し、塩分・水分制限にも配慮しています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルは一部作成しています。その都度注意事項等を職員に伝達するようにしています。インフルエンザの予防接種は、ご入居者・職員全員接種するようにしています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	ふきんは毎回、まな板は毎晩漂白し、天気の良い日は日光消毒をしています。食材も新鮮な品物が揃っている店で毎日買い物に行っています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先や花壇にはできりだけ花を絶やさないようにし、家庭的な雰囲気大切に親しみやすい環境整備に気をつけています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく広いリビングでは、音楽を楽しんだりテレビを見られたりソファに横になられたりと思いいいにくつろがれています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールやリビングの窓際などにソファや椅子を置き、気の合う同士または一人で外を眺めたりできる空間づくりに配慮しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内はそれまでの生活が可能な限り継続できるよう、使い慣れた家具を持ち込んでいただき、家族の写真を飾ったりしてご本人が安心して居心地のよく過ごしていただけるよう配慮しています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	室温の調節は天候や体調など考慮し、夜間帯についてもこまめに行っています。ご利用者の健康を第一に考えて自然な風をいれるよう心がけています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・風呂場・玄関には手すりをつけ、必要に応じて居室にも設置箇所を増やしたり、滑り止めマットの使用などによっても安全に自立して生活して頂ける工夫をしています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ご利用者が一目でわかるように自室には同意を得て名前を表示させて頂き、トイレや風呂場も混乱を防ぐ意味でも表示しています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	デッキで日光浴をしたり、庭でバーベキューをしたりとご利用者に楽しんでいただけるよう工夫しています。庭には犬も飼っており和やかな雰囲気心がけています。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
			ご家族の皆様からも
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ご利用者お一人お一人が笑顔あふれるホーム作り、寄り添うケアに努力しています。

週に一度(日曜日)は、併設のデイサービスを利用し機能訓練も行っています。

ご家族に2ヶ月に一度は文章にてご入居者の心身の状態、生活ぶりをお知らせするようにしています。

ご家族の皆様からも喜んでいただいていると思います。

これからも岱明の里(グループホーム・デイサービスセンター・有料老人ホーム・訪問介護ステーション)の相乗効果が全ご利用者に発揮できるよう、努めていきたいと思っています。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム岱明の里
(ユニット名)	北棟
所在地 (県・市町村名)	熊本県玉名市岱明町高道1090-1
記入者名 (管理者)	西口俊之
記入日	平成20年10月30日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	「感謝から報恩へ、報恩から地域貢献へ」の理念のもと、地域の中の岱明の里を意識しながら「ゆっくり いっしょに たのしく」をモットーにサービスを提供しています。	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	毎朝の職員ミーティングにおいて理念の唱和を行い、常に理念を意識できるよう心がけています。	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	地域で行われる行事等には積極的に参加し、岱明の里を認知していただけるようにしています。また機関紙「笑顔の里」にご利用者の笑顔・喜びの表情などを掲載する事により、ご家族・地域の方々に岱明の里を理解していただく努力をしています。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	ご入居者との散歩時等、ご近所の方と挨拶をかわしたり、時には道で立ち話をしたりすることもあります。また、近くの小中学校の登下校時にも挨拶を交わしています。	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	地域の行事(宮祭り・夜市など)、夏祭りや小学校の運動会、また町主催の福祉まつり等に積極的に参加しています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	グループホーム支部会への職員参加、また地域の各種行事へ参加する事により認知高齢者への理解を広げる機会としたいと思っています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価は全職員の意識を高める上で有意義なことと理解し、日頃のケアを振り帰るチャンスと捉え日々改善に取り組んでいます。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での内容を会議に出席していない職員にも伝え、話しあう時間を設けています。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所としては行政に進んで色々な事柄を相談したりしています。行政側にももう少し活発な意見を期待したいところです。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	まだまだ十分には理解できていないと考えます。今年数人ですが介護支援専門員を受験いたしましたので職員の中には学ぶ機会を持つことができた者もいると思います。次の段階として他の職員への勉強会等を考えていこうと思っています。現在まで必要な方の事例はありません。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が正しく認識しており、虐待のないケアを行いまた防止にも努めています。		職員ミーティングにおいて情報交換を行い、虐待のないホームであるようにさらに努めていきたいと思っています。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書・重要事項説明書を読んでいただき、不明・不安なことなどないか尋ね、十分理解していただけるようきちんと説明を行っています。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご利用者の不満・苦情を聞いたときは、職員で話し合い速やかに回答できるよう心がけています。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>年3回の機関紙発行や年2回の家族会、また面会時には日常生活や健康状態を報告できるようにしています。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>個々の面会時には必ず近況報告を含めてご家族と話す時間を持ち、意見等を聞ける時間としています。また年2回の家族会においても事業運営全般についても意見を聞く時間を持ち、運営に反映させる姿勢を伝えています。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月に一度は全体会議を行い、職員の考えや意見を聞き反映させるよう努めています。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>ご入居者の状況の変化、状態やペースに合わせた職員の勤務調整を行うよう努めています。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>管理者や職員には常日頃より話してはいますがやむをえず退職また新しい職員が入職した場合新人教育等にて一日も早くご利用者に信頼して頂ける職員になれるように配慮しています。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に合わせた研修等には積極的に参加させています。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は運営者として必要不可欠なものと認識しています。運営者自らも同業者を訪問したり、色々な悩み等話す機会をつくっています。職員を同行することも度々です。支部会にも積極的に参加させ交流する機会を持たせています。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	懇親会を開いたり、日常のさりげない会話の中で職員の様子を理解する様努め、気になる職員がいた場合には個別に話す機会を持つようにしています。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員個々の働きを把握する為にも、毎日職員とは顔を合わせるようにし、言葉をかけるように努めています。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご入居当初の不安・寂しさ・求めておられる事を早く理解できるように職員全員が会話等頻繁にするようにし、職員間での情報の共有に努めています。	一日も早くホームの生活に慣れていただけるように集中的にご利用者の状態の把握に努めると共に職員とご利用者の信頼関係づくりに力を注ぎたいと思っています
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談を受けた段階から、ご家族の話を受け止めるよう努め、話をする機会を密にしています。	ご家族のニーズがどこにあるのかに気づく為にも話しあう機会を密に持ち、グループホームでの支援を理解していただき利用当初から信頼関係が築けるよう努めています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族と可能な限り話す機会を持ち、グループホームでの支援が適切であるかを職員間でも話し合い、今何が必要であられるかを見極められるよう努めています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ケースによっては入居まで何度か訪れていただいたり、入居後はご家族の協力の下ご本人が納得されるような場面作りを心がけています。		ご利用者本人に安心感を与え納得していただける状況、雰囲気作りをご家族と話し合いながら努力しています。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	業務本位にならないように、ご利用者の方との生活の場である事を忘れずいっしょに毎日を楽しんでいただけるように心がけています。		職員とご利用者が日々支えあう関係づくりに今後も努めていきたいと思っています。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族との関係を第一に考え、面会時には近況報告を行い情報の共有に努め、共に支えているという認識を持っていただけるよう努めています。		ホームとご家族の情報交換は蜜に行うように努めています。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでご家族が担ってこられた部分をすべて断ち切るのではなく、ご家族と共に支える姿勢をご理解いただけるよう話し合いながら支援をしています。		遠方にお住まいのご家族には、電話や手紙などで近況報告を行い、できるだけ身近に感じていただけるよう努めています。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	ご家族ともご相談のうえ、ご本人がホームにいらっしゃることを馴染みの方には伝えて頂き、可能な限り面会に来ていただいたりしています。季節の行事では馴染みの場所を訪ねるよう配慮しています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員は、ご利用者同士の関係を把握しており日常生活を楽しく、支え合って過ごしていただけるように配慮しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院などやむをえない事情での契約終了の場合も、様子を見に行ったり、退院後の相談にも応じるようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者本人が会話を理解できる場合には本人より聞き取り、本人が伝えられない場合には日頃の行動や表情などから好みややりたいことなどを把握するようにしています。また、ご家族から意見を聞いたりを職員間で情報を共有するようにしています。		日々の生活の中で、ご利用者本人の希望・意向、またご家族の希望も取り入れていくように努めています。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご利用者本人、ご家族からこれまでの生活を聞き取るようにしています。(様式3枚)入居前に他サービスをご利用の場合はその担当者からも情報を得るようにしています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員全員がお一人お一人をより理解できるよう情報の共有には力をいれています。介護記録はもちろん申し送りノートなども活用して総合的な把握に努めています。		ご利用者お一人お一人の日常生活に何が必要かなど職員間で情報を交換し、話し合いを重ねています。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月のミーティングによりご利用者本人の状況を把握しケアの変更等はできるだけ本人に確認し、家族に報告相談し行っています。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリング(ミーティング)を行い、それに基づき3ヶ月ごとには定期モニタリング記録を行っています。状態が安定されている場合は6ヶ月毎に計画書を作成し、入退院等による変化があった場合等には必要に応じ見直しを行っています。		お一人お一人毎月のモニタリングを行い、現状に即した介護計画の見直しを行うようにしています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録、バイタル表、プログラム表の記入を行っています。バイタル表は食事や排泄のチェックも行っていきますのでケアの見直しに役立っています。		ケース記録にできるだけ日々の様子やご利用者の発せられた言葉を記録するように努力しています。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイサービスを利用し機能訓練などを行ったり、ご利用者やご家族の状況に応じて受診など柔軟な対応をしています。		併設のデイサービス・有料老人ホームなどを利用し、ご利用者間の交流を積極的に行っていきたいと思っています。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	町で行われる行事には参加できるよう行政にも協力いただいたり、小中学校とは多くの交流を持たせていただいています。毎年行う防災訓練には広域消防をはじめ地区消防団等にも協力をいただいています。		ご利用者のことをよく知るみなさまの訪問など地域との交流をもっと増やし、つながりを大切にしていきたいと思っています。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居によって途切れてしまいそうになるそれまでのサービス利用等も他事業者との連携によって利用ができるよう相談をしたりしています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加していただくことを通じて地域の情報をいただいたり、包括的な支援のあり方などの相談させていただいています。		今後権利擁護事業等について教えて頂く機会をつくりたいと考えています。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者本人、ご家族同意の上かかりつけ医の変更を行うこともあります。受診はご家族同行を基本とするよう方向転換しつつあります。初診時の手続きや、受診日の調整、受診内容の把握、内服薬の受取りの支援は行っています。また、緊急時には適切な支援を行っています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>ご利用者本人の心身の状態・状況に応じた自然な形での声かけ、介護を心がけています。</p>	<p>ご利用者の尊厳・秘密保持には、職員ミーティングのなかで今まで以上に徹底していきたいと思っています。</p>
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>身体能力や認知能力に応じた穏やかな態度で接し、ご利用者が思いや希望を表せる様な雰囲気づくりに配慮しています。</p>	
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>ご利用者お一人お一人の生活リズムに配慮しながら、ご本人のペースを大切に日々をすごしていただけるように対応しています。</p>	<p>ご利用者の希望の添った、気持ちを大切にする対応に今まで以上に努めていきたいと考えます。</p>
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>ご利用者本人の希望にて、理容・美容の店にはご家族また職員の同行にて行けるように支援しています。</p>	<p>ご利用者の生活習慣に合わせた支援に努めています。</p>
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食材の準備・食器の後片付け・献立の相談など職員と一しょにご自分の役割をはたしていただいています。</p>	
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>現在お酒やタバコを希望される方はおられません、おやつ等についても健康面に留意しながらも、好みに応じて支援できるように心がけています。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表にてご利用者のパターンを把握するようにし、またご本人の訴えや行動の様子で排泄を予測できるようにし、トイレでの誘導に努めています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の順番・時間は特に決めておらずご利用者の希望またはタイミングなどに併せた対応をしています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居時や不安定でおられる時など、居室での睡眠を無理強いせずリビングのソファで休んで頂くなど、その時々状況に応じて支援しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物の整理・食器類の片付けなどご利用者にあった仕事をお願いすることで役割を持っていただき、して頂いた事に感謝の言葉を伝える事によって喜びを感じていただけるよう支援している		ご利用者の身体の状態などにも考慮するとなかなか全員での外出が思いどおりにはできていませんが、可能な限り外出等も楽しみにしていただけるよう機械を増やしていきたいと思っております。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様によってはご自分のお財布を持っておられ、外出時の買い物の支払いは本人がされています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩・外出等はお一人お一人の希望に添うように対応しています。		ご利用者の健康状態等考慮しながら季節感を感じていただけるような外出にも心がけています。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族との外出やまた地域の行事、ホームの行事でも出かける機会を作っています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者の希望に添えるように電話や手紙などできるように支援しています。	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間の制限はしておらず、いつでも訪問して頂けるようにしています。また、リビングにソファなどを置きくつろげる空間を作っています。居室を含めてゆっくり過ごしていただけるように努めています。食事時間に重なった場合などは一緒に食事して頂く事もしばしばです。	
(4) 安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が認識しており、状態や状況によってはご家族と相談し事故防止に努め、身体拘束のないケアを心がけています。	禁止の対象となる具体的な行為については、職員ミーティングなどで共有認識する事による身体拘束のないケアに努めています。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ご利用者にはできる限り自由に行動していただけるよう配慮しています。危険をとまなうかもしれないと考えられる場合には、行動を制止するのではなく一緒に行動する事を心がけています。	
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ご利用者の健康状態、行動については職員間の申し送りの徹底にて、ご利用者の様子の把握に努めています。	夜間帯においてはご利用者お一人お一人の状況・動きなどよっての巡視・訪室で安全に配慮しています。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ご利用者の状態・状況に応じて保管・管理するように心がけています。	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員ミーティングまたは内部研修等により知識を学んだ上で、ご利用者お一人お一人を理解し事故防止につながる努力をしています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急対応マニュアルに基づいて、ご利用者の急変・事故等に対応しています。また、警備会社とのシステムを利用する事によっても緊急時の連絡体制を整えています。		応急手当については、職員勉強会や外部研修等に参加していきたいと考えています。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	広域消防署・地区消防団また地域住民の方の協力も得て年一回の防災訓練を行っています。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ご利用者の状態、行動、健康面を含めたリスクについては、ご家族との話し合い、また面会時等に状況報告を密にし、その上でご本人が暮らしやすい環境を整えることができますようにしています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日常の体調を把握し、例えば有熱者は頻回に検温し、変化ある場合はご家族にも報告・相談し、必要時医療機関を受診するようにしています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	別にしていた受診記録をケース記録にまとめずぐにないよう確認できるようにしています。服薬管理は二重チェックして行っています。		服薬についてはご本人への手渡し、服用確認は必ず行うようにしています。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便状態は、バイタル表・ケース記録・業務日誌に記録しチェックしています。季節や飲食物によるものか考え、水分補給やトイレ誘導、腹部マッサージ、下剤調節等を行っています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	ご利用者への声かけ、見守り、また介助にて歯みがき・義歯の洗浄を行い、口腔の状態の把握には気をくばっています。		毎食後の口腔ケアについては、ご本人の状況・状態によって差はありますが、声かけ・見守り・介助にてできるだけ行うよう努力しています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量チェックは毎回行っています。水分量は必要時にはチェック表を使用し、栄養不足が考えられる場合は、補助食品を使用(医療機関処方による)し、塩分・水分制限にも配慮しています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルは一部作成しています。その都度注意事項等を職員に伝達するようにしています。インフルエンザ予防接種は、ご入居者・職員全員接種するようにしています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	在庫食材・冷蔵庫内等は定期的にチェックし、調理器具等も含めて衛生管理には気をつけています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先や花壇にはできるだけ花を絶やさないう様にし、家庭的な雰囲気大切に親しみやすい環境整備に気をつけています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間に関しては花を飾ったりして季節感が感じられるようにしたり、レースのカーテンの使用によって光の調節など可能な限り居心地のいい場所となるように心がけています。		冬場にはリビングにこたつを用意してご利用者同士のいごこちのよい場所づくりをしています。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールや廊下などにもソファや椅子を置き、気の合う同士または一人で外を眺めたりできる空間づくりに配慮しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	居室内はご本人のそれまでの生活が可能な限り継続できる よう、使い慣れた家具を持ち込んでいただき、お一人お一人 の落ち着ける居室作りにも配慮しています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	ホーム全体、リビング、居室の温度調節や換気にはご利用者 本人の希望や状態にも配慮しながら調節しています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	廊下・トイレ・風呂場・玄関には手すりをつけ、必要に応じて 居室内にも設置箇所を増やしたり、滑り止めマットの使用な どによっても安全に生活していただける工夫をしています。		車椅子や杖歩行などで歩行が不安定なご利用者のことも 考え、通路・リビング等にもできるかぎり不必要な物を置か ないように配慮しています。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	場所の認知混乱を防ぐためにも、了解を受けて居室入り口 に名前を表示させていただいたり、風呂場・トイレなども表示 する事によって失敗も防げるように工夫しています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	ベランダや庭にも椅子やテーブルを置き日光浴や散歩が楽 しめるような配慮をしています。花壇には花を植え、水掛など を含め楽しんでいただいています。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

併設のデイサービス・有料老人ホームご利用の方と、レクリエーション等を通じた交流を深め、またデイサービスの機器を利用した機能訓練を行い、ご利用者の残存機能維持に努めています。

ご家族に、2ヶ月に一度は文章にてご入居者の心身の状態、生活ぶりをお知らせするようにしています。ご家族の皆様からも喜んでいただいていると思います。

ご利用者に安全に安心して日々を過ごしていただき、職員と共に笑顔あふれるホーム作りを行っています。

これからも岱明の里(グループホーム・デイサービスセンター・有料老人ホーム・訪問介護ステーション)の相乗効果が全ご利用者に発揮できる様、努めていきたいと思っています。